

学ぶ

新型コロナウイルス禍で飲食店が苦境に立たされている。特に大学や学校のそばにある店は、外出自粛や授業のオンライン化の影響で学生の来店が減り、事態は深刻だ。そこで、学生

スタッフが各地で奮闘する学生ゆかりの店を紹介し、激励のメッセージを届けたい。「頑張れ、学生メシ！」

(構成・杉浦正至)

by 学生スタッフ

頑張れ、学生メシ！



カレースタンド「ハ〇吉」
(名古屋市中種区)

現役4人で開店

テークアウト中心で、野菜たっぷりのカレーを提供している。運営するのは現役の学生たち。非日常を感じさせる個性的な店構えで「名古屋をカッコよくしたい」と情熱を燃やす。

学生4人が「面白いことをやりたい」と1月に開店。従業員の大半が学生だ。コロナ下でも経営は順調で副社長の名古屋大4年、若山純さん(23)は「ピンチはチャンス」と前向きだ。

カレーは「ハ〇吉カレー」(1280円)と月替わりのカレー(1480円)の2種。大きなニンジンやピーマンが存在感を放つ。スパイスが辛いのは控えめ。市営地下鉄自由ヶ丘駅の目の前で近くに愛知工業大自由ヶ丘キャンパスや市立名古屋商業高校がある。17日、吹上駅前2号店を開く。不定休。

「天使のしぼりたてモンブラン」(千八百円)、焼き菓子など商品は七十種ほど。店内飲食もできる。コロナ流行前は同大病院の患者のお見舞いや退院祝いにも重宝された。堀由理香社長は「お客さんの幸せのお手伝いをしたい」と力を込める。定休日は一月一日。

浜松医科大や浜松日体中学・高校の近く。昨年、創業五十周年を迎えた老舗洋菓子店。南仏風のおしゃれな店内とこだわりのスイーツで、医療者を志す同大生らの心を潤してきた。クッキー生地を用いたシュークリーム(二百円)、細きマのマロンペーストを目の前で掛ける



「サン・ラファエル」
(浜松市東区)

医大生の心潤す

女子大生に人気

「ザ・サンロクゴ」
(愛知県日進市)



名古屋学芸大、名古屋外国語大、愛知学院大、愛知淑徳大、椛山女学園大などが周囲にひしめく日進市竹の山。流行の先端を行くパンやスイーツを味わえ、女子学生らが詰め掛ける。

2階のカフェスペースはゆったりとした雰囲気。Wi-Fi環境やコンセントも

あり、勉強やオンライン授業で長居する学生もいる。マリトッツォ(280円～)、カヌレ(250円～)などが人気。コロナ禍で学生は減ったが、テークアウト需要は堅調だ。山際幸二店長(43)は「気楽に毎日立ち寄ってもらえる店にしたい」。不定休。

先生の卵ら集う



「食事処 葵」
(愛知県豊田市)

豚カツ二百円に、チキンカツ四百円。甘めのみそだれで、飯が進む。ボリューム満点のミックスカツ定食(ランチ八百八十円)は、変わらぬ味で親しまれている。今月、創業五十周年を迎えた。近くの愛知教育大で学ぶ先生の卵たちの胃袋を満たして半世紀。 「学生さんにおなかいっぱい、いものをお安く食べてほしい」と社長の高柳和昭さん(55)の思いも変わらない。教員になった卒業生が教え子を連れて来店したり、定年退職後に訪れたりすることもある。店舗改装のため、八月末までの予定で休業中。市内の系列店「カフェレスト カール」の一部メニューを提供している。



ラーメン「二代目英吉家」
(名古屋市中区和区)

常連が通う家系

ラーメン激戦区、と呼ばれる名古屋市の八事地区で「学生との距離の近さ」で人気。濃厚なとんこつしょうゆ味の家系ラーメン店だ。中京大のすぐそばで、同大や南山大、名古屋大などの学生が行列をつくる。

2012年開店。看板メニューの「らーめん」(650円)は、こってりしたスープにモチモチの中太麺、大きな焼き豚が特徴だ。無料のご飯はおかわり可能で、懐に優しい。店内には常連客の写真やサークルの勧誘ピラが張られている。

大学のオンライン授業化で打撃を受けたが、最近は対面授業が再開され、徐々に客足は回復。店長の寺尾勇輝さん(23)は「もっと常連さんに愛され、学校がない時でも学生さんに来てもらえるお店にしていきたい」と意気込む。日曜定休。

《取材した学生スタッフ》

愛知教育大・大津桃花、南山大・前野佑直、名古屋学芸大・井上きさら、浜松医科大・佐藤天音

※価格は「ザ・サンロクゴ・スタンド」のみ税抜き、他は税込みです。